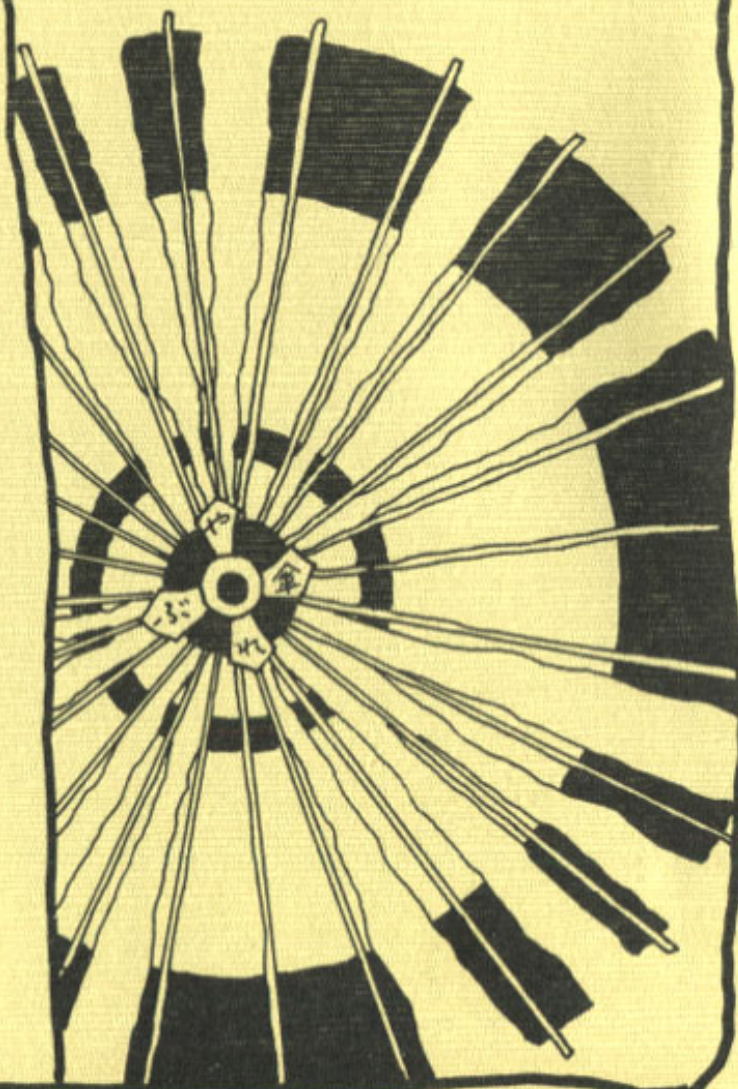


やぶれ傘

八十三号

二〇二五年四月



船腹のタイヤ寄りくる猫柳 根橋宏次

屋上に並ぶ鉢植ゑ鳥雲に きくちきみえ

野球見る自転車籠にさくら餅 大島英昭

釣り舟の離れて浮かぶ春の池 廣瀬雅男

戸袋に鳥ゐる気配竹の秋 瀬島酒望

帰りゆく鳥か櫓の芽吹く空 藤井美晴

臘月新宿駅へ坂上る 丑久保勲

囀りや紅茶の茶葉の踊る朝 安藤久美子

春月や土手に佇む人のゐて 白石正躬

交差点見おろすカフェ花の午後 青谷小枝

愛想なき犬撫でてゐてうらなり 小山陽子

春めけり伝言板の伝言の 渡邊孝彦

出荷者の名に憶えあり春野菜 久世孝雄

京菓子の春めくいろを二つ三つ 菊池洋子

分校は今幼稚園梅白し 國保八江

抄 集 句 傘 ね ぶ や 選 夫 紀 崎 大

春の雪サクラサクとふメール来る 有賀昌子

春風にバス待つ間吹かれをり 松村光典

梅まつり犬は雑木につながれて 時田義勝

飛石に日射しうつりて春隣 野口朝世

自転車を畳む群あり春の駅 橋本美代

風花や発掘現場説明会 松本善一

やはらかく膝つく庭師冬牡丹 松本正生

日向ぼこ三途の川を見たやうな 秋山信行

鼓動聴く寝袋のなか春の間 大野芳久

間を置きて雪落つる音越の夜 奥田温子

木瓜の花袋小路をもどるとき 神山市実

開けるたび鈴鳴る財布百千鳥 上林富子

父の手の時にやさしく雪兎 菊地葉子

種蒔きの種を小分けに布袋 黒木東吾

青鬼とハイタッチの子節分会 齋藤朋子

蛇の昼

大崎紀夫

日向へと水脈引いてゆくかいつぶり
雪晴れの道を歩いてゆく鴉
昼過ぎの魚はこぞりて氷の上へ
星ひとつ出てより豆を撒きにけり
巡礼の杖の触れゆく花馬酔木

木馬館通り暮れゆく春時雨
道ばたでつむじ風消え黄水仙
坂下に家と畑と黄水仙
海苔を干すにほひ物置小屋のそば
トラックが陶土をおろす春の鵲
山廬より坂をくだつて桃の花
散骨の船出て岸は虻の昼

猫
柳

根橋宏次

溜り水舐めて猫ゐる寒の明け
うすらひの乗り上げてゐる畦の縁へ
落味噌やあまだれの音小止みなく
船腹のタイヤ寄りくる猫柳
飯台のすし飯にほふ桃の花
豆雛の背に六曲の豆屏風
海猫渡る浮玉山と積まれゐて
虎杖をぽきんぽきんと折りながら
坂の下茶房の前の花ミモザ
対岸の人も見えてゐる残り鴨

鳥雲に

きくちきみえ

白き風かもめの水へ墜ちにけり
春光のからすの嘴に届きけり
ガム嚙んでゐる間に春になつてをり
ぼたん雪のせてキリンの睫かな
泡吹いてきて食べ頃の焼き栄螺
電線の交叉する街辛夷咲く
ヘッドライトに花びら動く辛夷かな
髪切りてたちまち春の風の中
屋上に並ぶ鉢植ゑ鳥雲に
イチゴジャム大きな泡で出来上がる

さくら餅

大島英昭

古草のひかる堤防よりくだる
横を向く稲荷のきつね春ならひ
立春のビニールハウスより時報
佐保姫を四囲に玉子を買ひに行く
母子像の母の頭に春日差
切株に座れば丁度よき春日
野球見る自転車籠にさくら餅
春の雨下枝の先が傘に触れ
白猫が捨てられてゐる花なづな
しばらくは乙女椿に沿ふ小道

春の池

廣瀬推男

手袋を脱ぎ駄菓子屋に入りにつけり
声高な祝詞聞こゆる鬼やらひ
日のあたる土手匂ひけりいぬふぐり
釣り舟の離れて浮かぶ春の池
初蝶の真つ黄色にて小さくて
芽柳やゆるりと浮子の立ちあがる
ほころびし垣の縄目や落椿
剪定の梯子トラックより伸びる
花の下恋をしてゐる鳩の居て
ラーメンの幟はためく花見茶屋

竹の秋

瀬島洒望

間道は雪に埋もれてゐたりけり
除雪車の試運転してゐたりけり
梅見茶屋床几の下に猫のゐて
本郷や袋小路に枝垂れ梅
臘梅や堆肥置き場に猫車
カトレアを胸の辺りに棺閉ず
山頂へもの運ぶへり日脚伸ぶ
戸袋に鳥ゐる気配竹の秋
パイの皮ぽろぽろ毀^{こぼ}れ春炬燵
図書館の裏の坂道春日傘

木瓜の花

藤井美晴

帰　り　ゆ　く　鳥　か　櫓　の　芽　吹　く　空
作　務　衣　着　て　作　務　衣　干　し　を　り　木　瓜　の　花
道　の　神　小　綬　鶏　の　こ　ゑ　だ　し　ぬ　け　に
古　雛　の　こ　と　を　ひ　と　言　桃　を　挿　す
温　か　き　日　は　西　窓　に　回　り　け　り
古　書　ひ　と　つ　求　め　し　午　後　や　木　の　芽　風
校　庭　に　あ　ふ　る　る　日　差　し　雪　柳
月　朧　弁　財　天　へ　橋　渡　る
春　の　星　波　消　し　に　波　寄　す　る　音
春　昼　の　五　重　塔　に　鳥　啼　く

探 梅

丑久保 勲

寒林に入りてゆつくり路線バス
立春や紅茶の茶葉を匙二杯
探梅や立つてほほばる焼団子
強まりし外の雨脚春炬燵
二階より見下ろす庭の春めいて
マチネーや春めいてゐる傘の波
朧月新宿駅へ坂上る
壁にかかるおかめひよつとこ猫の恋
たちまちに春の夕焼け雨上る
後ろより音なき自^く動^る車^ま雪柳

種 袋

安藤久美子

八方へ向く大輪の椿かな
俳人のがやがやと寺の春
春時雨革の表紙の手に馴染む
荷台より春の花鉢溢れけり
春北風シャベルと空の如雨露かな
大振りの球根と買ふ種袋
囀りや紅茶の茶葉の踊る朝
春の野を抜け来て象牙美術館
雨靴を履いたままなり春の虹
春なれや久しぶりなる逆上がり

◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句 会 名	会 場	連 絡 先
5 月	1 日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5 日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	5 日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6 日(水)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WE P俳句教室	藤 井 美 晴
	23日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WE P俳句教室	WE P編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6 月	1 日(月)	PM7:00	ぎ ん な ん 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2 日(火)	AM9:00	こ な か ら 会	戸田市中央公民館	國 保 八 江
	2 日(火)	PM6:00	う ら ら 会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	5 日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5 日(金)	PM6:00	な ご み 会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WE P俳句教室	藤 井 美 晴
	21日(日)	AM10:00	吟 行 会 (下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WE P俳句教室	WE P編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月のNHKは第5金曜日の29日(金)です。

6月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は横浜のJR根岸線
根岸駅改札口。横浜駅より大船方面15分乗車。吟行地は三溪園。
句会場は神奈川近代文学館。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733
 大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ